

平成 22 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、全国的に天気が数日の周期で変わりました。中旬は、前半は前線や低気圧の影響で、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。後半は東、西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、北日本では低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、20日は台風第13号の湿った気流と前線により奄美地方では記録的な大雨となり、甚大な災害が発生しました。下旬は、はじめは前線の影響で東日本から沖縄にかけて曇りや雨となりましたが、北日本では高気圧に覆われ晴れました。中頃は低気圧の影響で北日本から西日本は雨となり、その後は冬型の気圧配置になって強い寒気が南下したため、北日本では初雪を観測した所もありました。旬の終わりは台風第14号が日本の南岸に沿って北上し、東日本の太平洋側を中心に大雨となり、大荒れの天気となった所もありました。

月を通しての日照時間は、北、東日本の日本海側をのぞき全国的に平年よりかなり少なく、西日本と沖縄・奄美では10月の月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。降水量は沖縄・奄美で平年よりかなり多くなり、10月の月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。東、西日本の太平洋側では平年より多くなりました。気温は全国的に平年より高く、東、西日本ではかなり高くなりました。

【10月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）並の72%でした。地方毎の適中率は、北海道地方では例年より9ポイント高くなりましたが、関東甲信、九州南部地方ではそれぞれ5ポイントと10ポイント低くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年より0.1 から0.2 大きくなった地方と、0.1 から0.2 小さくなった地方がそれぞれ全体のほぼ半分を占め、全国平均は例年並でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的にほぼ例年並となり、全国平均も例年並となりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の週間天気予報の利用にあたって】

他の季節に比べ、冬季は低気圧が日本付近で発達しやすく、しばしば荒れた天気となります。例えば昨年(2009年)の年末に、低気圧が急速に発達しながら日本海を北東進し、大荒れの天気となった所がありました。週間天気予報ではこのような天気が予想される場合、概況の中で「荒れた天気」や「大荒れの天気」などと記述し、注意を喚起します。連休や年末年始の休みなどを利用して冬山の登山を計画する場合は、週間天気予報の概況も参考にされることをお勧めします。